

留学先：マカオ大学

氏名：松岡ななみ

【自己紹介】

こんにちは。私は福井大学国際地域学部国際地域学科・グローバルアプローチ2年の松岡ななみと言います。2019年1月から2019年12月の一年間、マカオ大学へ留学させていただいています。同じ学部の先輩お二方に続き、同じ学部、同じ学年の坂井穂花さんと一緒に、これから一年間マカオ大学での出来事や、マカオ、香港、中国本土での経験などをみなさんに楽しんでいただけるようにお伝えしていきたいと思えます。よろしくお願ひします。

【マカオ大学を選んだ理由】

私が1年間の留学先としてマカオ大学を選んだ理由は大きく分けて三つあります。一つ目は、マカオの公用語が英語ではないということです。マカオの公用語は中国語（広東語）とポルトガル語です。公用語が英語でない場所に行けば、その場所の公用語も学べて一石二鳥だ、というのが私の考えです。大学の授業を通して英語を学び、普段の生活を通して中国語を学ぶことが出来ます。とても良い経験だと思えます。二つ目は、マカオ大学はビジネス系を強みとして持っているということです。私は、前々からビジネスに興味があり、機会があれば勉強したいと思っていました。また、マカオには多くのカジノがあるため、それに関連したマカオならではの授業が開講されています。将来、カジノができるであろう日本で働く私たちにとって、とても魅力的だと思いませんか。三つ目は、アジアにしながら西洋の雰囲気を感じられるということです。みなさんは、マカオが過去にポルトガル領であったことを知っていますか。マカオには、ポルトガル領であった時代のなごりが多く残っています。その多くは世界遺産にも登録されています。とても魅力的な街並みが広がっています。

【マカオ生活最初の一か月】

マカオに来て、早くも一か月がたちました。留学が始まる前は、最初の一か月は、新しい環境に慣れるので精いっぱいだろうな、ホームシックになるのかな、などと考えていました。しかし、実際、この一か月は予想とは正反対でした。新しい環境ではありますが、すぐに慣れ、ルームメイトともすぐに仲良くなり、ホームシックになることもありませんでした。ホームシックにはこれからなるのかもし



れませんが。マカオ大学には、私たち以外にもたくさんの日本人留学生がいます。この一か月のほとんどが、その人たちにマカオを案内してもらったり、必要な物を買に行ったりすることで過ぎていきました。私は2018年12月31日にマカオに着いたので、年越しをマカオでしました。上で書いたように、マカオはカジノの町であるため、とても盛大にカウントダウンが行われました。人もたくさんいて、初めての経験でした。マカオに来て二週目から授業が始まりました。私が今季とっている授業はどれもとても面白く感じています。



ここで私が住んでいる寮とルームメイトを紹介します。私が住んでいる寮は Cheng Yu Tung College という寮で、Cheng Yu Tung とは、香港で三番目にお金持ちと言われていた人の名前です。寮の部屋は広くはありませんが、思っていたよりも不便していることはありません。私のルームメイトは中国本土から来ている私より一つ年上の女の子です。彼女は日本語を学んでいた経験があり、日本に興味があります。なので、私たちは、普段の生活の中で、私は彼女に日本語を教え、彼女は私に中国語を教えるということをしています。普段の会話は英語ですが、中国語も学べるのでとても楽しいです。彼女は話すことが大好きなので、自然と英語を話す機会が多くなるので私にとってとても良い存在になっています。1月の終わりには、私のルームメイトと私のバディと三人で珠海という中国本土にある地域へ行ってきました。そこはマカオから一時間くらいで行けるので、マカオの人たちはよく行くみたいです。彼女たちはお互いで話すときは中国語を使うため、私はほとんど理解できませんが、中国語を習得するうえではとても良い経験になっています。珠海では、彼女たちのおすすめの火鍋と BBQ のお店に行き、食事をしました。火鍋の食材は日本では食べないものが多くとてもおもしろかったです。中国の人と出かけることは、日本人と出かけるよりも、いろいろなところへ行けるのでとても楽しかったし、二人との仲も少し深まった気がしました。

マカオは、学生が楽しむような場所はあまり多くはないため、食をめぐることが多いので、ローカルな穴場をどんどん見つけていきたいなと思います。



珠海で食べた BBQ



火鍋